

株式会社帝国ホテル 東京都千代田区

[贈呈理由] タワー館のターボ冷凍機更新にともない水蓄熱システム継続利用で省エネ・省コストを実現

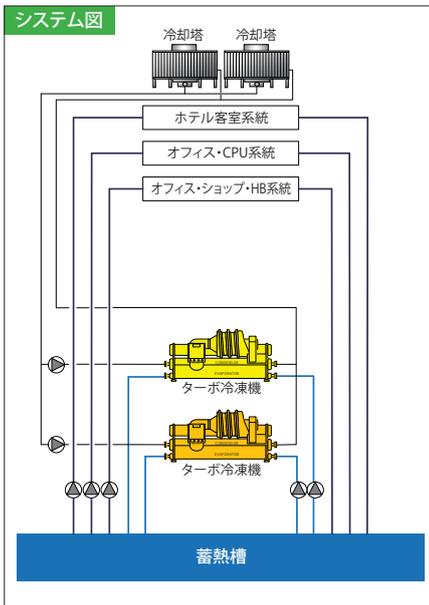


帝国ホテルは1890年11月に日本の迎賓館としての役割を担うべく、国の威信をかけて開業した。1923年9月に客室数270室のライト館を新築、67年11月にライト館の全客室を閉鎖し、70年3月に現本館、83年3月にタワー館を開業した。国際的ベストホテルを目指す企業として最も優れたサービスと商品を提供することにより、国際社会の発展と人々の豊かでゆとりある生活と文化の向上に貢献することを

企業理念に掲げる。

水蓄熱システムの他、さまざまな省エネルギー施策を実施

また、環境への配慮など企業としての社会的責任を果たすべく、「環境委員会」の下に「グリーンチーム」を設置し、部門横断的な組織のもと活動を行っている。空調設備については省エネルギー・省コストの一環で、水蓄熱システムを利用して冷房を行っている。今回、タワー館開業当初から稼働しているターボ冷凍機を、高性能ターボ冷凍機へ更新することでさらなる省エネルギー・省コストを図った。また夏季のピーク時間帯にはターボ冷凍機を停止して、蓄熱槽からの放熱運転を行うことでピーク電力抑制にも寄与している。その他にもLED導入拡大、ゴミの削減・リサイクル促進、屋上緑化等をすすめており、LEDは全体の65.4%導入済みで、震災前と比較すると年間使用電力量を4.4%削減している。ゴミの削減・リサイクル促進の具体的な取り組みとしては社内情報共有ツール活用による大幅な紙の使用削減、アルミ缶・牛乳パック等のリサイクルを推進しており、2013年7月に千代田区より優良廃



一次エネルギー消費量削減効果



〔諸元〕2013年度のターボ冷凍機運転実績に基づき、2015年度エネルギー使用量を冷凍機運転時間より想定し比較（2014年度は更新工事中のため実績が取れず）
一次エネルギー換算値
電気（全日）：9.76MJ/kWh（※）
（※）「エネルギーの使用の合理化に関する法律施行規則」（10年改正）



ターボ冷凍機

棄物管理者表彰を受賞した。

また、宴会場「孔雀の間」「桜の間」の屋上に環境対応型人工芝を採用して緑化することで環境にも配慮している。

今後も重要な役割を担う水蓄熱システム

今後もお客さまの要請を発想の原点として提供するすべてのサービス、技術の向上改善に徹し、新しい価値の創造に努めていくうえで省エネルギー・省コストを図ることは非常に重要である。その根幹となる水蓄熱システムは今後のホテル運営において引き続き重要な役割を担っていく。

株式会社帝国ホテル

所在地：東京都千代田区内幸町1-1-1
建築設計：(株)山下設計
建築施工：清水建設(株)
蓄熱設備設計：新日本空調(株)
蓄熱設備施工：新日本空調(株)
延床面積：97,879㎡(タワー館)
竣工：2015年3月(タワー館/更新)

蓄熱設備概要

水蓄熱式空調システム
熱源機：ターボ冷凍機 3.516kW×2台〔荏原冷熱システム〕
蓄熱槽：1,700㎡(冷水槽)